

日中バイオマスフォーラム講演原稿

東京大学総長 小宮山宏

2005年11月15日

「日中バイオマスフォーラム」ご参加の皆様、おはようございます。わたくしは東京大学の小宮山でございます。今回のフォーラムに参加できることは非常に残念に思います。この場をお借りして、開催のお祝いメッセージを送らせていただきます。

このたび、「日中バイオマスフォーラム」の開催を心からお祝い申し上げます。そして、開催のために、ご協力いただいた共同主催者中国国家環境保護総局と日本農林水産省をはじめ、中国科学技術部、農業部、國家発展改革委員会など政府関係者、事務局の中国環境科学学会、中国環境科学出版社と株式会社KRIの方々、それからご来場の皆様に御礼を申し上げます。また、編著者の一人として、「バイオマス・ニッポン」の中国語版を出版することは大変光栄、と同時に嬉しく思います。

2002年12月に閣議決定されたバイオマス・ニッポン総合戦略は、環境問題の解決、循環型社会の形成、温暖化問題の解決、また、それに関連して京都議定書への貢献、地域の活性化などを目的とし、現在一府六省が一体となって、あらゆる形で産官学連携しながら推進しています。この総合戦略は、日本ではじめて省庁連携的な、各々の役割を明確にし、強みを生かした国の総力を挙げた総合戦略です。わたくし自身はこの総合戦略の提唱者の一人であり、策定アドバイザリーグループ座長を務めた経験もあります。

アジアは近年、目ざましい経済発展をしており、それに伴い様々な環境問題が起きています。大気汚染、水環境汚染、食糧問題、水資源問題、ゴミ問題などが既に顕在化した問題として挙げられており、各国が対策の必要性を強く感じています。バイオマスの利活用はまさにこれらの問題をまとめて解決するには一番良い方法ではないかと思います。

東京大学は日中交流の最前線に立っています。今年の4月27日、東京大学の北京代表所が正式に設立されました。この代表所は、すでに北京市をはじめ各地に海外拠点を設置している欧米及び日本の多くの大学とは異なり、中国で初めて、中国政府の許可を得て、正式に登記された海外拠点であると承知しております。また、11月4日無錫市に東京大学工学系研究科代表所が設置されます。

私自身でも、1990年代後半から、中国の仲間と一緒に中国におけるバイオマス利用、いわゆる農業残渣からバイオ燃料を生産することを目指した国際共同プロジェクトを立ち上げた経験があり、中国は最も近く国の一つでもあります。

21世紀はアジアの時代だと言われております。そのアジアを代表する日中両国でのますます交流が促進されることは、アジアの持続可能な発展につながると確信いたしております。

最後に、本日このフォーラムにお越しいただいた皆様方のますますのご健勝、ご発展とフォーラムおよび日中交流の成功を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

しえしえ（謝謝）！